

## 1 参加大会等名または視察研修を行った館名

参加大会名：第110回全国図書館大会 長崎大会

## 2 期日・期間

令和6年11月30日（土）～12月1日（日）

## 3 派遣者の所属・氏名

西之表市立図書館 鈴木 桂（熊毛支部）

## 4 研修の目的

「図書館がつなぐ人・まち・ミライ」という大会テーマのもと、地域住民のニーズを把握し、今後図書館が担うべき役割や新たなサービスの可能性について学ぶ

## 5 研修内容

【1日目（11/30）】全体会（記念講演） ※船便欠航で出席できず後日、配信動画にて視聴

「読書がもたらすもの」講師：澤田 瞳子 氏 『星落ちて、なお』で直木賞受賞

- ・物語は自分と違う人生に手軽にアクセスでき、自分自身の世界を広げていくもの
- ・フィクションであろうがノンフィクションであろうが読書の本質に変わりはない

【2日目（12/1）】分科会（第1分科会・公共図書館）

テーマ：「社会の変化と公共図書館のミライ」

基調講演：田村 俊作（石川県立図書館館長）

「市民目線のサービスをめざして—これからの公共図書館サービスを展望する—」

- ・地域の課題解決サービス，利用者サービスと視点の転換

事例報告：石山 雅晴（諫早市立諫早図書館館長）

「図書館へ!!図書館から!!～諫早市立図書館の現在とこれから～」

- ・全館，室で33のボランティア団体。市民とつくる図書館

事例報告：野口 良美（五島市立図書館館長）

「しまの暮らしをささえ、地域をつくる図書館をミライへ」

- ・新図書館整備計画の過程と建設反対運動，コロナ禍を経て開館した現在について

事例報告：一ノ瀬 留美（筑後市立図書館館長）

「図書館に付加価値を付けていくサービス展開」

- ・生活とともにある図書館，利用者を選ばない公平なサービス展開を目指す

## 6 所見

記念講演では澤田氏が小説家ならではの視点で読書の意義について話され、読書習慣がない方に本の魅力を伝える上で参考になりました。分科会では情報のデジタル化、読書バリアフリー法の制定等、図書館を取り巻く環境が急速に変化してきている中で図書館の存在意義や果たすべき多様な役割について学ぶことができました。

結びに、全国で先進的な活動をしている図書館の事例に触れることができる機会を作っていただいたことに感謝申し上げます。